

放射線 **0** の危険

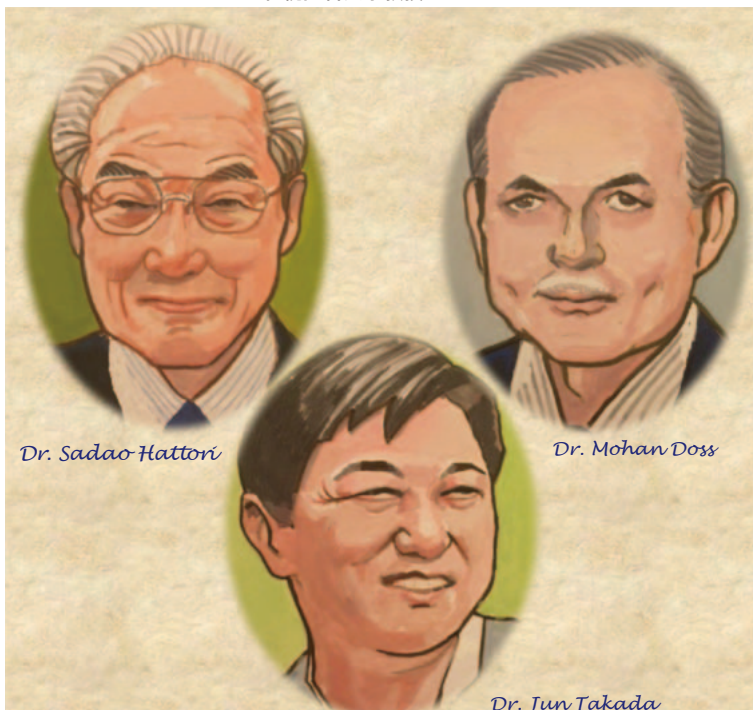
Risk of No Radiation

LNT モデルのもたらす世界危機の克服
Overcoming the world crisis caused by the LNT model

服部 禎男
元電力中央研究所理事

高田 純
札幌医科大学教授

モハン・ドス
フォックス・チェイス・キャンサー・センター准教授



放射線ゼロの危険

高田 純／モハン・ドス／服部 禎男：著

- A5判／116頁 ● 2014年11月刊
- 定価（本体1,500円＋税） ● ISBN978-4-86003-453-5

医療科学社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-11-9 TEL 03-3818-9821 FAX 03-3818-9371
<http://www.iryokagaku.co.jp> (くわしくはホームページをご覧ください)

放射線ゼロの危険

LNT モデルのもたらす世界危機の克服

福島第一原発事故以来、放射線規制値の根拠とされているLNTモデル（放射線リスクのしきい値なし直線仮説）は、近年の研究で否定され、低線量率ではかえって免疫力が改善されるホルミシス効果の驚くべき知見が相次いでいる。こうした放射線医学の真の姿を示すことで、本書は、福島の放射線が全く健康な範囲にある意味を正しく理解した上で、LNTモデルの廃止こそが日本創生のカギと説く。

〈主要目次〉

第1章 低線量率放射線だった福島県民

—科学的根拠のない福島20km圏の放置（高田 純）

- 1-1 福島県民が低線量率放射線だった事実／1-2 福島軽水炉事故災害が低線量だった理由／1-3 福島県民の線量低下

第2章 福島の低線量放射線とどう向き合うか

—日本が主導すべきLNTモデルの撤廃（モハン・ドス）

- 2-1 LNTモデルの問題点／2-2 がんの主な原因は免疫システムの不全／2-3 低線量放射線が免疫力を高める／2-4 私たちのすべきこと

第3章 放射線の身体影響

—DNAは放射線が大好き（服部 禎男）

- 3-1 放射線ホルミシス／3-2 科学的放射線安全について／3-3 放射線適応応答

第4章 放射線なしに生命は存在しない

—福島20km圏内の低線量率にリスクなし（高田 純）

- 4-1 太陽の放射エネルギーと生命／4-2 太陽紫外線の曝露が大腸がんリスクを低下させる／4-3 放射線の健康増進と防護の境界となる線量率